

悪政からの防波堤として奮闘！

民報

おうしゅう

読者版

発行
赤旗奥州出張所
水沢大手町三丁目 59
Tel 24-2021
Fax 24-2049

奥州市議会9月定例会では、令和5年度の決算審査が行われました。日本共産党奥州市議団は、市民の福祉向上のため、市政課題について質しました。

令和5年度、奥州市の職員数は医療局を含み、正規職員1062名(60・7%)、会計年度任用職員688名(39・3%)合計1750名です。一般業務補助する会計年度任用職員の年収は、週5日30時間勤務経験年数3年以上で、190万1千円です。依然として、いわゆるワーキングプア状態です。

会計年度任用職員が多すぎる

瀬川貞清議員は、集計時期の違いもあるが、県の統計によると奥州市の会計年度任用職員の割合は55・3%と、県内14市の中で飛びぬけて1位であり、全体の半分以上を占める割合で仕事が行われている点について、本当に異常でありこのような現状は改善すべきでないかと、質しました。

職種の細分化は人事面で柔軟を欠く

担当者は「会計年度任用職員にお願いする業務は専門分野ごとに細分化していて、フルタイムの業務量にならない。正規職員の職種を種別に細分化すると、人事面で柔軟に対応できなくなる。この柔軟性は非常に重要と認識しており、正規職員と会計年度任用職員をうまく併用しながら、行政運営を行っている」と述べました。



『ぼちつと奥州』の普及策は

千葉敦議員は、市民に対する生活総合支援アプリ「ぼちつと奥州」の登録数は8445件とのことだが、10万人を越える人口に対して少なく、さらなる普及策及び市民にもっと利用していただく方策について、質しました。

まだまだ足りない

担当者は「まだまだ足りない」と認識している。利用できるサービスを増やすこと、高齢者のデジタル講習会での周知や転入者への転入手続き時お願いして伸ばしていきたい」と述べました。



福祉担当との連携は

千葉敦議員は、市税及び国保税の滞納繰越分について、財産等の差し押さえ等を行われている世帯に対して福祉関係課につなげた世帯数はいくらかのか、質しました。

穀田恵二党国対委員長 来たる！



●日時 10月18日(金)
午前11時頃

●場所 いわて生協
「コープアテルイ水沢」
北側

みなさん、ご参加ください

納税相談は日常的に

担当者は「債権等の差し押さえは、生活に影響を及ぼさないようしている。本人の体調とかも聞き取りしながら、納付相談に努めている。他の納付でも滞納が考えられるので、福祉部門や他の納付担当課と連絡を密にしながら同時に進めている。納税相談は普段から日常的に行っているもので、集計していない」と述べました。

広報誌にとじ穴を

菅原明議員は「この間、市の広報誌の重要性が増している。現在、広報誌にはとじ穴がなく、穴があれば保存しやすく、のちのちまで保存して見ていただけたらいいかと思う。穴がないとすぐに捨てられることもありうる。費用がかかると思うが、穴をあけるべきでは」と質しました。

担当者は、「とじ穴の必要性は認める。検討していきたい」と述べました。